２０２２（令和４）年度

環 境 活 動 レ ポ ー ト

吉川油脂
www.y-yushi.com

対象期間

2022（令和 4）年６月１日　～2023（令和 5）年５月３１日

承認	作成
千福	千尋
2023（令和 5）年 7 月 31 日	2023（令和 5）年 7 月 31 日

YOSHIKAWA YUSHI Co., Ltd. www.y-yushi.com

株式会社吉川油脂
www.y-yushi.com

Ⅰ　事業活動の概要

事業所名　：　株式会社　吉川油脂
代表取締役　：　吉川　千福

本社所在地　：　〒327-0231　栃木県佐野市飛駒町 3845-3
関連事業所　：　福島本宮営業所・福島本宮工場
〒969-1118　福島県本宮市本宮町下台 18-13
長野営業所・長野工場
〒390-1243　長野県松本市神林字小坂道 7107-46
埼玉営業所
〒340-0813　埼玉県八潮市大字木曽根 638-1
東信営業所
〒386-0016　長野県上田市国分 867-1
茨城営業所・茨城工場
〒319-0206　茨城県笠間市安居 3062-1

環境管理責任者　：　取締役　吉川　千尋
連絡担当者　：　総務部マネージャー　大室　明日香

連絡先　：　【本社・工場】
TEL:0283-66-2233　FAX: 0283-66-2234
【福島本宮営業所・福島本宮工場】
TEL:0243-34-1414　FAX: 0243-24-1490
【長野営業所・長野工場】
TEL：0263-88-5004　FAX：0263-88-2544
【埼玉営業所】TEL：048-999-7555　FAX：048-999-7550
【東信営業所】TEL：0268-75-0645　FAX: 0268-75-0646
【茨城営業所・茨城工場】　**※2022.7 月から稼働**
TEL：0299-56-2851　FAX：0299-56-2852

事業の規模　：　資本金　4000 万円
設立　平成 2 年（1990 年）10 月
敷地面積　7707 ㎡（本社）・3489.76 ㎡（福島本宮工場）
1648.48 ㎡（長野工場）・1373.5 ㎡（東信営業所）
別会社保有のため記載なし（埼玉営業所）
2349.76 ㎡（茨城工場）

事業内容　：　産業廃棄物収集運搬業・中間処理業、
廃食用油回収・リサイクル及び販売
（全活動が対象）

廃棄物処理料金
提示方法　：　廃食用油の品質・排出量に伴い別途相談

≪本社≫

活動規模	売上高 （百万円）	処理量 （t）	従業員 （人）	車両 （台）
平成 19 年	650	16, 687	96 （知的障害者 40）	キャブオーバ 45 タンク 2 計 47
平成 20 年	735	16, 769	90 （知的障害者 40）	キャブオーバ 45 タンク 2 計 47
平成 21 年	735	16, 792	95 （知的障害者 36）	キャブオーバ 45 タンク 2 計 47
平成 22 年	726	15, 835	95 （知的障害者 36）	キャブオーバ 46 タンク 2 計 48
平成 23 年	859	15, 569	98 （知的障害者 24）	キャブオーバ 46 タンク 2 計 48
平成 24 年	988	15, 080	95 （知的障害者 16）	キャブオーバ 47 タンク 2 計 49
平成 25 年	1, 018	15, 286	98 （知的障害者 16）	キャブオーバ 48 タンク 2 計 50
平成 26 年	1, 059	14, 594	99 （知的障害者 15）	キャブオーバ 50 タンク 2 計 52
平成 27 年	1, 013	14, 784	97 （知的障害者 15）	キャブオーバ 53 タンク 2 計 55
平成 28 年	939	15, 062	99 （知的障害者 16）	キャブオーバ 53 タンク 2 計 55
平成 29 年	1, 129	15, 196	108 （知的障害者 16）	キャブオーバ 57 タンク 1 計 58

次ページへ続く。

活動規模	売上高 （百万円）	処理量 （t）	従業員 （人）	車両 （台）
平成 30 年	1, 177	14, 814	86 （知的障害者 16）	キャブオーバ 33 タンク 1 計 34
令和元年	1, 377	13, 817	85 （知的障害者 16）	キャブオーバ 36 タンク 1 計 37
令和 2 年	1, 442	13, 291	73 （知的障害者 12）	キャブオーバ 39 タンク 1 計 40
令和 3 年	2, 036	12, 831	72 （知的障害者 12）	キャブオーバ 34 タンク 1 計 35
令和 4 年	3, 302	10, 394. 6	72 （知的障害者 12）	キャブオーバ 33 タンク 1 計 34

※平成 21 年度から事業年度（6 月～5 月）に変更。

※従業員数は平成 29 年まで、埼玉・長野営業所を含む。

≪福島本宮工場≫

活動規模	処理量（t）	従業員（人）	車両（台）
平成 22 年	1,831	7	キャブオーバ 4 計 4
平成 23 年	1,736	8	キャブオーバ 4 計 4
平成 24 年	2,097	8	キャブオーバ 4 計 4
平成 25 年	1,753	8	キャブオーバ 5 計 5
平成 26 年	1,928	8	キャブオーバ 5 計 5
平成 27 年	2,007	8	キャブオーバ 5 計 5
平成 28 年	2,129	8	キャブオーバ 6 計 6
平成 29 年	2,193	8	キャブオーバ 6 計 6
平成 30 年	2,221	10	キャブオーバ 6 計 6
令和元年	2,340	12	キャブオーバ 7 計 7
令和 2 年	2,696	13	キャブオーバ 7 計 7
令和 3 年	2,811	11	キャブオーバ 7 計 7
令和 4 年	2,489.3	11	キャブオーバ 7 計 7

≪長野工場≫

活動規模	処理量 (t)	従業員 (人)	車両 (台)
平成 29 年	353	3	キャブオーバ 3 計 3
平成 30 年	712	4	キャブオーバ 3 計 3
令和元年	765	4	キャブオーバ 3 計 3
令和 2 年	760.2	5	キャブオーバ 4 計 4
令和 3 年	854.6	5	キャブオーバ 4 計 4
令和 4 年	924.5	6	キャブオーバ 4 計 4

≪埼玉営業所≫

活動規模	回収量 (t)	従業員 (人)	車両 (台)
平成 29 年	4,245	15	キャブオーバ 15 計 15
平成 30 年	6,270	23	キャブオー21 計 21
令和元年	5,720	24	キャブオー23 計 23
令和 2 年	6,213	25	キャブオー20 計 20
令和 3 年	6,483.9	23	キャブオー22 計 22
令和 4 年	6,437.7	25	キャブオー22 計 22

≪東信営業所≫

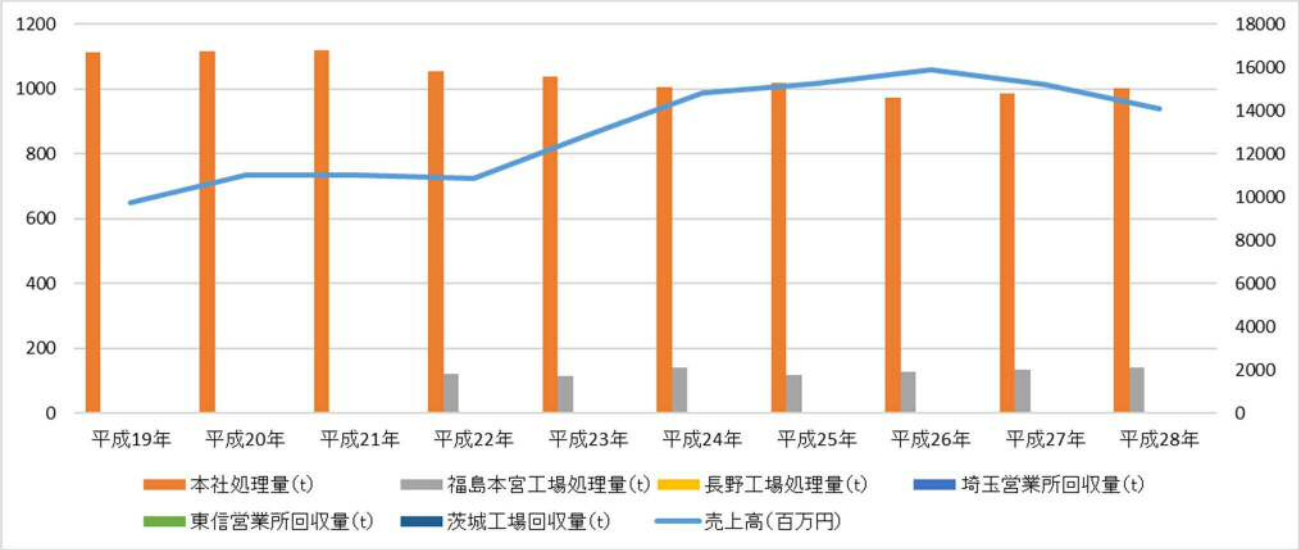
活動規模	回収量（t）	従業員（人）	車両（台）
令和２年	885.2	6	キャブオーバ 10 計 10
令和３年	1,144.2	8	キャブオーバ 9 計 9
令和４年	1,229.7	9	キャブオーバ 9 計 9

≪茨城営業所≫

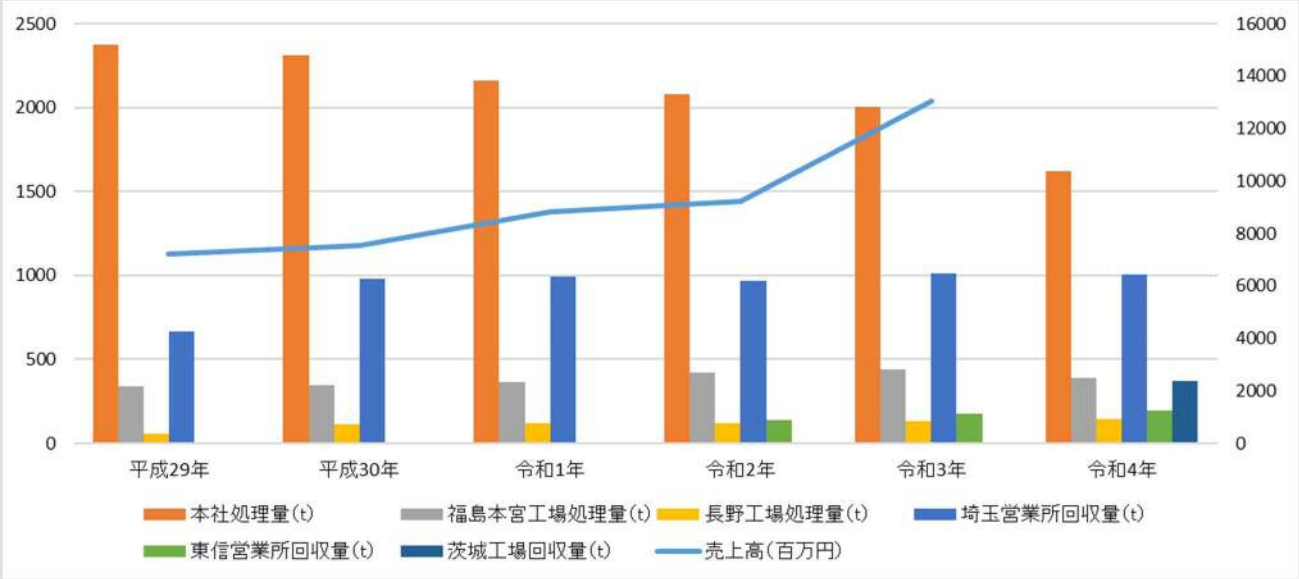
活動規模	回収量（t）	従業員（人）	車両（台）
令和４年	2,529.8	14	キャブオーバ 9 計 9

※2022（令和４）年７月から開業

平成 19 年度から 28 年度まで



平成 29 年度から今年度まで



受託した産業廃棄物の処理量

【本社】

4. 受託、または受領した廃棄物、再生資源等の処理量等

（１）産業廃棄物

○ 収集運搬量、処理量等をご記入ください。

（ｉ）収集運搬

廃棄物の種類	単位	収集運搬量
廃食用油	t	10,394.60
	t	
	t	
	t	
合計	t	10,394.60

（ii） 中間処理

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理		廃食用油	加熱分離・加熱個液分離	t	10,542.00
				t	
				t	
				t	
	うち再資源化等	廃食用油	加熱分離・加熱個液分離	t	10,542.00
				t	
				t	
				t	
		小計		t	10,542.00
合計				t	10,542.00

（iii）最終処分

廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量
		t	
		t	
		t	
合計		t	

（iv）中間処理後の産業廃棄物（最終処分・中間処理・再資源化等）

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量等
中間処理後の産業廃棄物	最終処分			t	
				t	
				t	
				t	
		小計		t	
		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量等
	（中間処理再資源化等）	再生油（燃料用）	油脂加温分離	t	4,216.80
		再生油（飼料用）	油脂加温分離	t	4,111.38
		再生油（工業用）	油脂加温分離	t	2,108.40
		再生油（肥料用）	油脂加温分離	t	105.42
		小計		t	10,542.00
合計				t	10,542.00

受託した産業廃棄物の処理量

【福島本宮工場】4. 受託、または受領した廃棄物、再生資源等の処理量等

（１）産業廃棄物

○ 収集運搬量、処理量等をご記入ください。

（ｉ）収集運搬

廃棄物の種類	単位	収集運搬量
廃食用油	t	2,489.30
	t	
	t	
	t	
合計	t	2,489.30

（ⅱ） 中間処理

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理		廃食用油	加熱個液分離	t	2,489.30
				t	
				t	
				t	
	うち再資源化等	廃食用油	加熱個液分離	t	2,489.30
				t	
				t	
				t	
		小計		t	2,489.30
合計				t	2,489.30

（ⅲ）最終処分

廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量
		t	
		t	
		t	
合計		t	

（ⅳ）中間処理後の産業廃棄物（最終処分・中間処理・再資源化等）

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量等
産業廃棄物 中間処理後の	最終処分			t	
				t	
				t	
				t	
		小計		t	
		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量等
	（再資源化等）中間処理	再生油（燃料用）	油脂加温分離	t	995.72
		再生油（飼料用）	油脂加温分離	t	970.83
		再生油（工業用）	油脂加温分離	t	497.86
		再生油（肥料用）	油脂加温分離	t	24.89
		小計		t	2,489.30
合計				t	2,489.30

受託した産業廃棄物の処理量

【長野工場】

4. 受託、または受領した廃棄物、再生資源等の処理量等

YOSHIKAWA YUSHI Co., Ltd. www.y-yushi.com

（1）産業廃棄物

○ 収集運搬量、処理量等をご記入ください。

（i）収集運搬

受託した産業廃棄物の処理量

【埼玉営業所】　4. 受託、または受領した廃棄物、再生資源等の処理量等

（1）産業廃棄物

○ 収集運搬量、処理量等をご記入ください。

（ｉ）収集運搬

廃棄物の種類	単位	収集運搬量
廃食用油	t	6,437.70
	t	
	t	
	t	
合計	t	6,437.70

（ii） 中間処理

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理				t	
				t	
				t	
				t	
	うち再資源化等			t	
				t	
				t	
				t	
		小計		t	
合計				t	

（iii）最終処分

廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量
		t	
		t	
		t	
合計		t	

（iv）中間処理後の産業廃棄物（最終処分・中間処理・再資源化等）

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量等
中間処理後の産業廃棄物	最終処分			t	
				t	
				t	
				t	
		小計		t	
		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量等
	（再資源化等）中間処理			t	
				t	
				t	
				t	
		小計		t	
合計				t	

受託した産業廃棄物の処理量

【東信営業所】

4. 受託、または受領した廃棄物、再生資源等の処理量等

（１）産業廃棄物

○ 収集運搬量、処理量等をご記入ください。

（ｉ）収集運搬

廃棄物の種類	単位	収集運搬量
廃食用油	t	1,229.70
	t	
	t	
	t	
合計	t	1,229.70

（ⅱ） 中間処理

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理				t	
				t	
				t	
				t	
	うち再資源化等			t	
				t	
				t	
				t	
		小計		t	
合計				t	

（ⅲ）最終処分

廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量
		t	
		t	
		t	
合計		t	

（ⅳ）中間処理後の産業廃棄物（最終処分・中間処理・再資源化等）

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量等
産業廃棄物 中間処理後の	最終処分			t	
				t	
				t	
				t	
		小計		t	
		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量等
	（中間処理 再資源化等）			t	
				t	
				t	
				t	
		小計		t	
合計				t	

受託した産業廃棄物の処理量

【茨城工場】　4. 受託、または受領した廃棄物、再生資源等の処理量等

（１）産業廃棄物

○ 収集運搬量、処理量等をご記入ください。

（ｉ）収集運搬

廃棄物の種類	単位	収集運搬量
廃食用油	t	2,529.80
	t	
	t	
	t	
合計	t	2,529.80

（ⅱ） 中間処理

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理		廃食用油	油脂加温分離	t	2,382.40
				t	
				t	
				t	
	うち再資源化等	廃食用油	油脂加温分離	t	2,382.40
				t	
				t	
				t	
		小計		t	2,382.40
合計				t	2,382.40

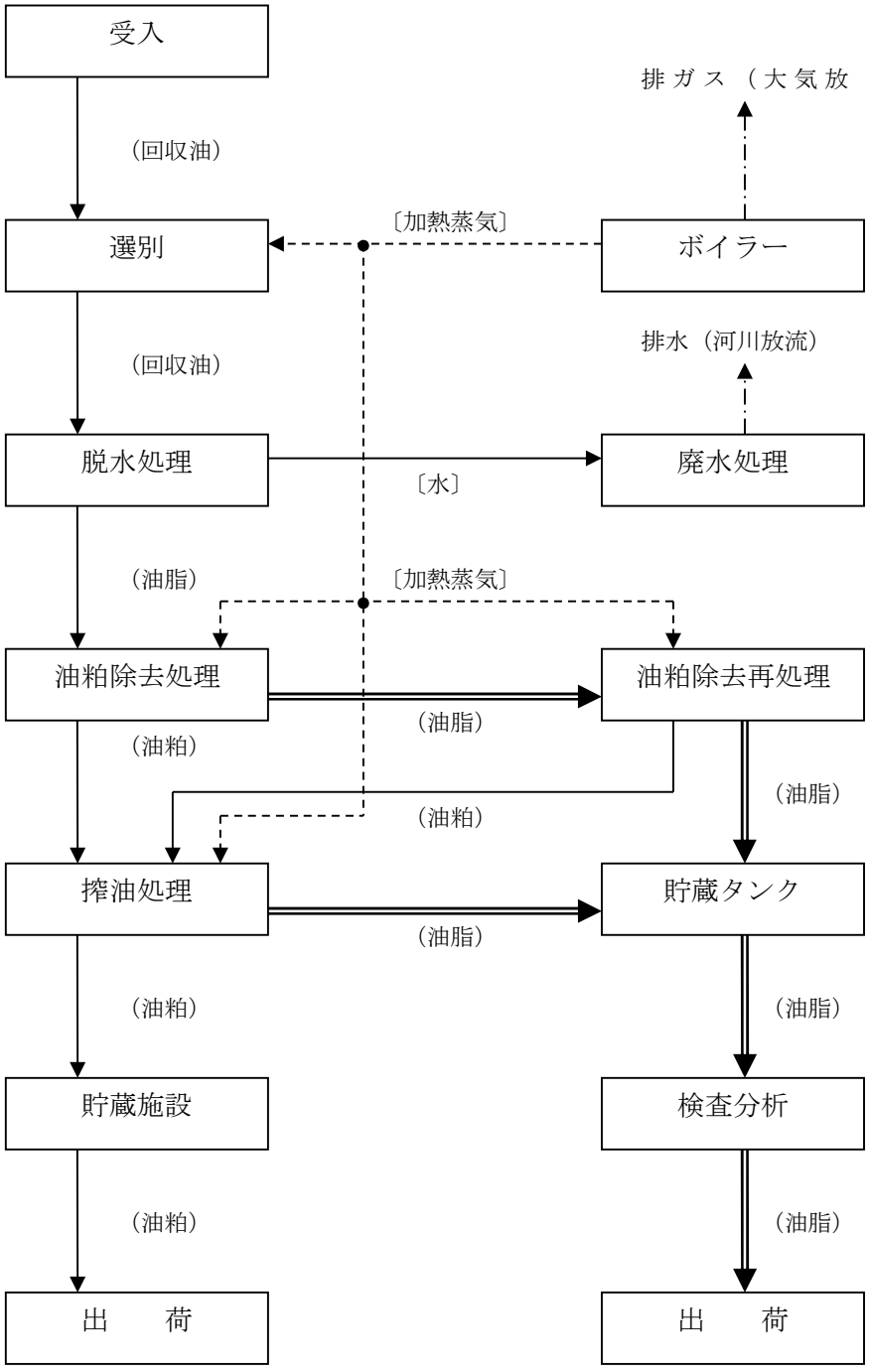
（ⅲ）最終処分

廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量
		t	
		t	
		t	
合計		t	

（ⅳ）中間処理後の産業廃棄物（最終処分・中間処理・再資源化等）

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量等
産業廃棄物	最終処分			t	
				t	
				t	
				t	
		小計		t	
		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量等
	中間処理後の（再資源化等）	再生油（燃料用）	油脂加温分離	t	952.96
		再生油（飼料用）	油脂加温分離	t	929.14
		再生油（工業用）	油脂加温分離	t	476.48
		再生油（肥料用）	油脂加温分離	t	23.82
		小計		t	2,382.40
合計				t	2,382.40

【廃食用油処理フロー】



〔用途：肥料原料〕

〔用途：飼料添加油脂、工業用油脂、燃

【中間処理施設の種類、処理能力、処理方法】

本社工場

中間処理施設の種類	処理能力　t／日			中間処理方法
	汚泥	廃食用油	動植物性残さ	
加熱分離施設 （２基）	24.00	41.04	41.04	・加熱分離 ・重力分離 ・遠心分離 ・ろ過分離
加熱固液分離施設 （２基）	―	24.00	―	・加熱固液 ・真空脱水 ・重力分離 ・遠心分離 ・ろ過分離
合計	24.00	65.04	41.04	

福島本宮工場

中間処理施設の種類	処理能力　t／日			中間処理方法
	汚泥	廃食用油	動植物性残さ	
加熱固液分離施設 （１基）	―	27.00	27.00	・加温固液分離
合計	―	27.00	27.00	

長野工場

中間処理施設の種類	処理能力　㎥／日			中間処理方法
	汚泥	廃食用油	動植物性残さ	
加温固液分離施設 （１基）	―	34.50	34.50	・加熱固液分離
合計	―	34.50	34.50	

茨城工場　※2022 年 7 月より

中間処理施設の種類	処理能力　㎥／日			中間処理方法
	汚泥	廃食用油	動植物性残さ	
油脂加温分離施設 （１基）	―	64	64	・油脂加温分離
合計	―	64	64	

【取得許可・認可】

●産業廃棄物収集運搬許可

県名	許可番号	許可取得日	最新更新日	許可の有効期限
栃木県	0900024176	平成 3 年 8 月 19 日	令和 3 年 8 月 19 日	令和 8 年 8 月 18 日
福島県	0707024176	平成 3 年 8 月 26 日	令和 3 年 9 月 1 日	令和 8 年 8 月 31 日
群馬県	1000024176	平成 4 年 6 月 4 日	令和 4 年 6 月 4 日	令和 9 年 6 月 3 日
茨城県	0801027176	平成 4 年 7 月 2 日	令和 4 年 8 月 9 日	令和 9 年 7 月 30 日
埼玉県	1105024176	平成 4 年 11 月 16 日	令和 4 年 11 月 16 日	令和 9 年 11 月 15 日
千葉県	1200024176	平成 6 年 10 月 11 日	令和元年 10 月 11 日	令和 6 年 10 月 10 日
東京都	1300024176	平成 10 年 1 月 30 日	令和 5 年 1 月 30 日	令和 10 年 1 月 29 日
神奈川県	1402024176	平成 10 年 8 月 13 日	平成 30 年 8 月 13 日	令和 5 年 8 月 12 日
新潟県	1509024176	平成 14 年 2 月 12 日	令和 4 年 3 月 18 日	令和 9 年 2 月 11 日
山梨県	1900024176	平成 16 年 5 月 7 日	令和元年 6 月 10 日	令和 6 年 5 月 6 日
長野県	2009024176	平成 16 年 7 月 23 日	令和元年 7 月 23 日	令和 6 年 7 月 22 日
宮城県	0400024176	平成 18 年 12 月 5 日	令和 3 年 12 月 5 日	令和 8 年 12 月 4 日
山形県	00609024176	令和 4 年 5 月 13 日	令和 4 年 5 月 13 日	令和 9 年 5 月 12 日

※法令改正により、政令指定都市の許可は返却。

取り扱う産業廃棄物の種類

汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、動植物性残さ、動物系固形不燃物、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、ゴムくず、動物の死体（畜産農業に係るもののうち、牛に限る。）、がれき類、木くず繊維くず

※下記、許可証一覧参照。

●産業廃棄物処分業許可

【本社工場】

許可番号「00920024176」

法根拠「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（廃掃法）

取得日・新規　：平成　７年１２月１１日

更　　新　：令和　２年１２月１１日

有 効 期 限　：令和　７年１２月１０日

取り扱う産業廃棄物の種類

汚泥、廃油、動植物性残さ

【福島本宮工場】

許可番号「00720024176」

法根拠「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（廃掃法）

取得日・新規　：平成２２年　３月１７日

更　　新　：令和　２年　６月１１日

有 効 期 限　：令和　７年　３月３１日

取り扱う産業廃棄物の種類

廃油（廃食用油に限る）、動植物性残さ（食品に由来するものに限る）

【長野工場】

許可番号「2029024176」

法根拠「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（廃掃法）

取得日・新規　：平成２９年１１月２１日

更　　新　：令和　４年１１月２８日

有 効 期 限　：令和　９年１１月２０日

取り扱う産業廃棄物の種類

廃油、動植物性残さ

【茨城工場】

許可番号「00821024176」

法根拠「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（廃掃法）

取得日・新規　：令和　４年　６月２０日

有 効 期 限　：令和　９年　６月１９日

取り扱う産業廃棄物の種類

廃油、動植物性残さ、金属くず

●再生利用事業

登録番号「9-2-4」

法根拠「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」（食品リサイクル法）

取得日・新規　：令和　５年　６月２６日

有　効　期　限　：令和１０年　４月３０日

●飼料製造業者

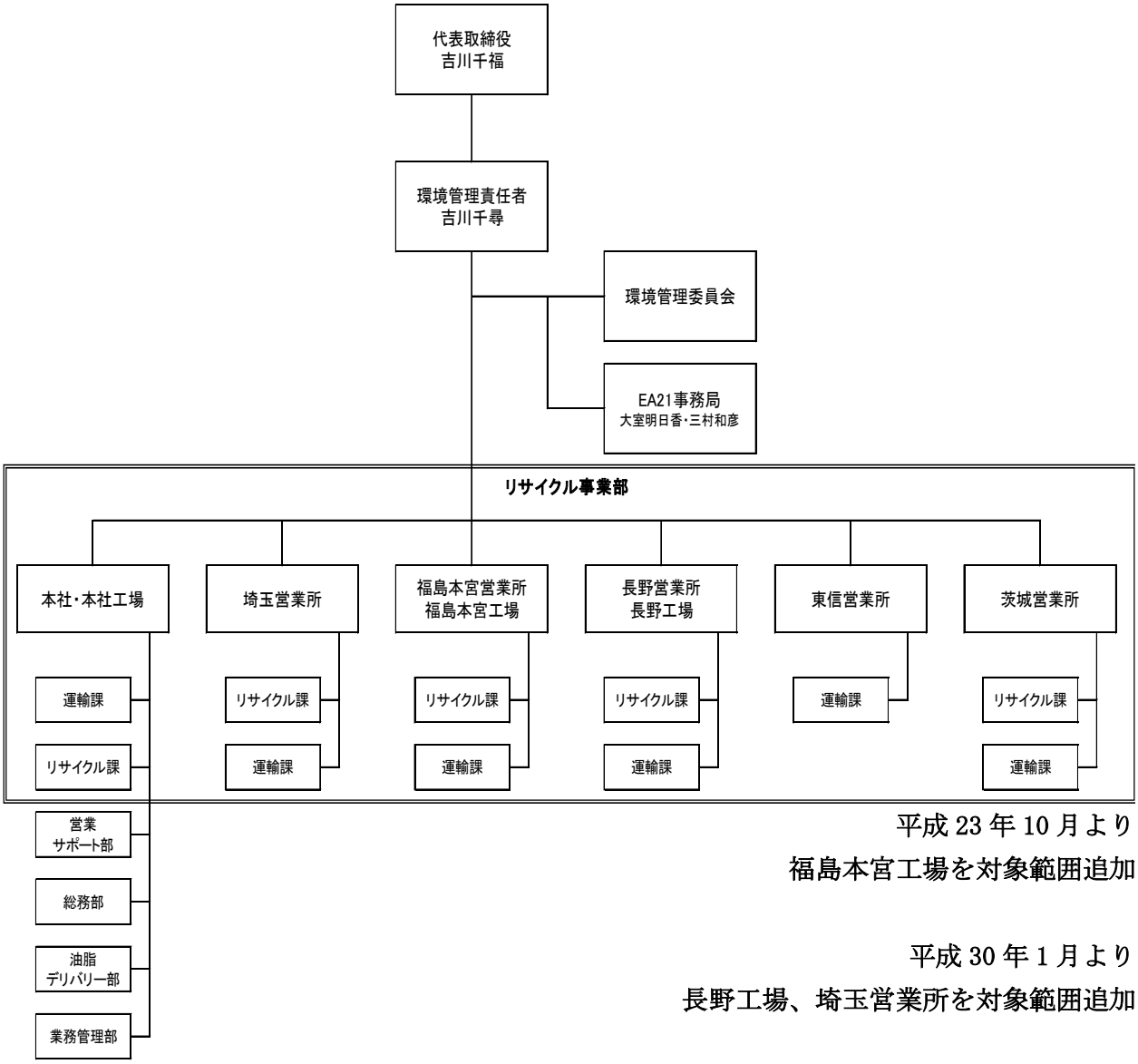
届出番号「畜産第 958 号」

法根拠「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（飼料安全法）

●廃棄物処理料金

当社へ直接お問い合わせください。

Ⅱ　ＥＡ２１取組み組織体制



平成 23 年 10 月より
福島本宮工場を対象範囲追加

平成 30 年 1 月より
長野工場、埼玉営業所を対象範囲追加

令和 2 年 6 月より
組織変更

令和 4 年 7 月より
茨城工場を対象範囲追加

上記の全組織を認証登録の対象範囲としている

Ⅲ　環境方針

＜環境理念＞

株式会社吉川油脂は、廃食用油のリサイクル事業活動をとおして、地球と地域の環境の保全に貢献します。

＜環境方針＞

1. 環境経営に積極的に取組むために、環境経営システムを構築し、継続的な環境負荷の低減に取組みます。

2. 環境への取組みとして、特に次の事項に取組みます。

- 廃食用油リサイクル量増加
- 二酸化炭素排出量の削減
- 総排水量の削減
- グリーン購入の推進
- 清掃等に使用する化学物質使用量削減

3. 環境に関する法律・規則・協定を遵守します。

4. 環境経営システムの内容を、全社員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めます。

令和元年７月１日
株式会社　吉川油脂
代表取締役　吉川　千福

Ⅳ　環境目標とその実績

（1）当社としては、次の中期目標を掲げて環境活動に取り組んできました。

≪本社≫

目標	取組項目	基準年 (2021 年度)	2022 年度 目標値	2023 年度 目標値	2024 年度 目標値
廃食用油 リサイクル量増加	廃食用油リサイクル量増加	1,069.3t/月	＋1.0% (1,080t/月)	＋2.0% (1,090.7t/月)	＋3.0% (1,101.4t/月)
二酸化炭素 排出量削減	A重油使用量削減 (回収量原単位)	30.55ℓ/t	△1.0% (30.24ℓ/t)	△2.0% (29.94ℓ/t)	△3.0% (29.63ℓ/t)
	電力使用量削減	528,112Kwh	△1.0% (522,831Kwh)	△2.0% (517,550Kwh)	△3.0% (512,269Kwh)
総排水量削減	水使用量削減	1,113t/月	△1.0% (1,102t/月)	△2.0% (1,091t/月)	△3.0% (1,080t/月)
産廃物削減	産業廃棄物の削減	353kg/月	△1.0% (349kg/月)	△2.0% (346kg/月)	△3.0% (343kg/月)
	コピー紙の使用量削減	18.7 kg/月	△1.0% (18.5 kg/月)	△2.0% (18.3 kg/月)	△3.0% (18.1 kg/月)
グリーン購入の推進	グリーン購入品目割合増加	実績確認			
安全運転向上	安全運転評価向上	74.1 点	＋2 点 (76.1 点)	＋4 点 (78.1 点)	＋6 点 (80.1 点)
化学物質使用量削減	化学物質使用量削減	2,400 kg/年	△1.0% (2,376 kg/年)	△2.0% (2,352 kg/年)	△3.0% (2,328 kg/年)
	営業部残業時間削減	一人当たり 41.24 時間/月	△1 時間 (40.24 時間/月)	△2 時間 (39.24 時間/月)	△3 時間 (38.24 時間/月)

≪福島本宮工場≫

目標	取組項目	基準年 (2021 年度)	2022 年度 目標値	2023 年度 目標値	2024 年度 目標値
廃食用油 リサイクル量増加	廃食用油リサイクル量 増加	234.3t/月	＋1% (236.6t/月)	＋2% (239.0t/月)	＋3% (241.3t/月)
二酸化炭素 排出量削減	A重油使用量削減 (回収量原単位)	14.61ℓ/t	△1% (14.46ℓ/t)	△2% (14.32ℓ/t)	△3% (14.17ℓ/t)
	電力使用量削減	86,456Kwh	△1% (85,591Kwh)	△2% (84,727Kwh)	△3% (83,862Kwh)
総排水量削減	水使用量削減	65.7t/月	△1% (65.0t/月)	△2% (64.4t/月)	△3% (63.7t/月)
産廃物削減	コピー紙の使用量削減	1.88 kg/月	△1% (1.86 kg/月)	△2% (1.84 kg/月)	△3% (1.82 kg/月)
グリーン購入の推進	グリーン購入品目割合増加	実績確認			
安全運転向上	安全運転評価向上	88.0 点	＋2 点 (90.0 点)	＋4 点 (92.0 点)	＋6 点 (94.0 点)
	営業部残業時間削減	一人当たり 35.32 時間/月	△1 時間 (34.32 時間/月)	△2 時間 (33.32 時間/月)	△3 時間 (32.32 時間/月)

≪長野工場≫

目標	取組項目	基準年 (2021 年度)	2022 年度 目標値	2023 年度 目標値	2024 年度 目標値
廃食用油 リサイクル量増加	廃食用油リサイクル量 増加	71.2t/月	＋1.0% (71.9t/月)	＋2.0% (72.6t/月)	＋3.0% (73.4t/月)
二酸化炭素 排出量削減	A重油使用量削減 (回収量原単位)	8.87ℓ/t	△1.0% (8.87ℓ/t)	△2.0% (8.69ℓ/t)	△3.0% (8.60ℓ/t)
	電力使用量削減	24,775 Kwh	△1.0% (24,527Kwh)	△2.0% (24,280 Kwh)	△3.0% (24,032 Kwh)
総排水量削減	水使用量削減	353t/年	△1.0% (349t/年)	△2.0% (346t/年)	△3.0% (342t/年)
産廃物削減	コピー紙の使用量削減	19.58 kg/年	△1.0% (19.38 kg/年)	△2.0% (19.19 kg/年)	△3.0% (18.99 kg/年)
グリーン購入の推進	グリーン購入品目割合増加	実績確認			
安全運転向上	安全運転評価向上	76.4 点	＋2 点 (78.4 点)	＋4 点 (80.4 点)	＋6 点 (82.4 点)
	営業部残業時間削減	一人当たり 38.39 時間/月	△1 時間 (37.39 時間/月)	△2 時間 (36.39 時間/月)	△3 時間 (35.39 時間/月)

≪埼玉営業所≫

目標	取組項目	基準年 (2021 年度)	2022 年度 目標値	2023 年度 目標値	2024 年度 目標値
廃食用油 リサイクル量増加	廃食用油リサイクル量 増加	540.3t/月	+1.0% (545.7t/月)	＋2.0% (551.1t/月)	＋3.0% (556.5t/月)
産廃物削減	コピー紙の使用量削減	5.23 kg/年	△1.0% (5.18 kg/年)	△2.0% (5.13 kg/年)	△3.0% (5.07 kg/年)
グリーン購入の推進	グリーン購入品目割合増加	実績確認			
安全運転向上	安全運転評価向上	83.0 点	＋2 点 (85.0 点)	＋4 点 (87.0 点)	＋6 点 (89.0 点)
	営業部残業時間削減	一人当たり 47.6 時間/月	△1 時間 (46.6 時間/月)	△2 時間 (45.6 時間/月)	△3 時間 (44.6 時間/月)

≪東信営業所≫

目標	取組項目	基準年 (2021 年度)	2022 年度 目標値	2023 年度 目標値	2024 年度 目標値
廃食用油 リサイクル量増加	廃食用油リサイクル量 増加	95.39t/月	+1.0% (96.3t/月)	+2.0% (97.3t/月)	+3.0% (98.3t/月)
産廃物削減	コピー紙の使用量削減	1.92 kg/月	△1.0% (1.90 kg/月)	△2.0% (1.88 kg/月)	△3.0% (1.86 kg/月)
グリーン購入の推進	グリーン購入品目割合増加	実績確認			
安全運転向上	安全運転評価向上	78.3 点	+2 点 (80.3 点)	+4 点 (82.3 点)	+6 点 (84.3 点)
	営業部残業時間削減	一人当たり 29.13 時間/月	△1 時間 (28.13 時間/月)	△2 時間 (27.13 時間/月)	△3 時間 (26.13 時間/月)

≪茨城工場≫

目標	取組項目	基準年 (2021 年度)	2022 年度 目標値	2023 年度 目標値	2024 年度 目標値
廃食用油 リサイクル量増加	廃食用油リサイクル量 増加	実績確認	実績確認	実績確認	―
二酸化炭素 排出量削減	A重油使用量削減 (回収量原単位)	実績確認	実績確認	実績確認	―
	電力使用量削減	実績確認	実績確認	実績確認	―
総排水量削減	水使用量削減	実績確認	実績確認	△2.0% (68.1ｔ/月)	△4.0% (66.7ｔ/月)
産廃物削減	コピー紙の使用量削減	実績確認	実績確認	△2.0% (4.154ｋｇ/年)	△4.0% (4.074ｋｇ/年)
グリーン購入の推進	グリーン購入品目割合増加	実績確認	実績確認	+2.0% (13.79%/年)	+4.0% (14.06%/年)
安全運転向上	安全運転評価向上	実績確認	実績確認	実績確認	―
	営業部残業時間削減	実績確認	実績確認	実績確認	―

（２）実績については次のとおりです。　※当社の会計年度が６月～翌５月までである。

≪本社≫

取組項目	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年 目標	令和 4 年 実績	目標達成状況
A重油使用量 削減（ℓ/t）	34.83	24.45	26.68	27.77	30.55	**30.24**	33.05	9.29%増 （未達成）
電力使用量 削減（Kwh）	615,495	599,574	553,114	524,711	528,112	**522,831**	**484,927**	**7.252%減 （達成）**
【CO2 排出量】 （Kg）	3,069,417	2,459,585	2,738,135	2,338,775	2,288,334	**―**	2,082,385.53	**14.65%減**
産業廃棄物 削減（kg/月）	2,931	2,173	660	255	353	**349**	**224**	**35.82%減 （達成）**
コピー用紙 使用量削減 （kg/月）	20.5	20.7	19.5	20.3	18.7	**18.5**	**18.2**	**1.62%減 （達成）**
水使用量削減 （ｔ/月）	1,275	2,026	1,942	1,108	1,113	**1,102**	1,235	12.07%増 （未達成）
化学物質使用量 削減（kg）	2,550	2,450	2,275	2,825	2,400	**2,376**	2,625	10.48%増 （未達成）
グリーン購入 品目割合増加 （%/月）						**実績確認**	55.6	
廃食用油 リサイクル量 増加（ｔ/月）	1266.3	1,234.5	1,151.4	1,099.6	1,069.3	**1,080**	866.2	19.8%減 （未達成）
安全運転評価の 向上（点）					74.1	**76.1**	**84.1**	**8 点増 （達成）**
営業部残業 時間削減			36.1	43.6	41.24	**40.24**	**37.3**	**2.94 時間減 （達成）**

※購入電力の排出係数基準は、0.525 Kg-CO2/KwH（平成 24 年東京電力）を使用。

≪福島本宮工場≫

取組項目	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年 目標	令和 4 年 実績	目標達成状況
A重油使用量 削減（ℓ/t）	7.18	7.98	10.24	11.24	14.51	**14.46**	**11.28**	**21.99%減 （達成）**
電力使用量 削減（Kwh）	33,998	27,092	41,438	67,768	80,456	**85,591**	83,568	**2.36%減 （達成）**
【CO2 排出量】 （Kg）	165,244	180,922	216,419	283,988	332,821	-	247,962.9	**53.84%減**
コピー用紙 使用量削減 （kg/月）	1.20	1.49	1.90	2.10	1.88	**1.86**	1.94	4.3%増 （未達成）
水使用量削減 （t/月）	80.75	66.4	74.4	61.8	65.7	**60.5**	**53.27**	**11.95%減 （達成）**
グリーン購入 品目割合増加 （%/月）						**実績確認**	22.08	
廃食用油 リサイクル量 増加（t/月）	182.75	185.0	195	224.7	234.3	**236.6**	207.4	12.34%減 （未達成）
安全運転評価の 向上（点）					74.1	**90.0**	**92.3**	**2.3 点増 （達成）**
営業部残業 時間削減			36.1	34.7	35.3	**34.32**	**33.17**	**1.15 時間減 （達成）**

※購入電力の排出係数基準は、0.600 Kg-CO2/KwH（平成 24 年東北電力）を使用。

≪長野工場≫

取組項目	平成 29 年 実績※	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年 目標	令和 4 年 実績	目標達成状況
A重油使用量 削減（ℓ/t）	23.59	17.55	13.42	9.78	8.87	**8.78**	**7.52**	**14.35%減 （達成）**
電力使用量 削減（Kwh）	15,811	29,302	19,238	21,828	24,775	**24,527**	24,988	1.88%増 （未達成）
【CO2 排出量】 （Kg）	37,254	117,811	97,374	112,505	111,125.5	**－**	**108,235.57**	**11.15%減**
水使用量削減 （㎥/年）	104	363	328	328	353	**349**	371	6.3%増 （未達成）
コピー用紙 使用量削減 （kg/年）	1.27	9.68	9.9	25.37	19.58	**19.38**	**14.36**	**25.9%減 （達成）**
グリーン購入 品目割合増加 （%/月）						**実績確認**	34.13	
廃食用油 リサイクル量 増加（ｔ/月） ※はｔ/年	58.8	※711.6	※765	※760.2	※854.6	**71.9**	**77.0**	**7.09%増 （達成）**
安全運転評価の 向上（点）					78.4	**78.4**	**89.35**	**10.95 点増 （達成）**
営業部残業 時間削減			59.17	41.96	38.39	**37.39**	**20.04**	**17.35 時間減 （達成）**

※平成 30 年 1 月分から 5 月分の実績

※購入電力の排出係数基準は、0.426 Kg-CO2/KwH（令和元年中部電力）を使用。

≪埼玉営業所≫

取組項目	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年 目標	令和 4 年 実績	目標達成状況
【CO2 排出量】 (Kg)	189,009	250,882	278,380	258,287	272,467.4	―	**274,854.42**	**1.27%減**
グリーン購入 品目割合増加 (%/月)						**実績確認**	40.7	
コピー用紙 使用量削減 (kg/月)	3.0	3.76	5.2	5.2	5.23	**5.18**	4.65	**10.23%減 (達成)**
廃食用油 回収量 増加 (t/月)	353.8	522.5	529.6	517.7	540.3	**545.7**	536.5	1.69%減 (未達成)
安全運転評価の 向上 (点)					78.4	**85**	81.8	3.2 点減 (未達成)
営業部残業 時間削減			46.53	51.08	47.6	**46.6**	47.78	1.18 時間増 (未達成)

≪東信営業所≫

取組項目	令和２年 データ収集	令和３年 データ収集	**令和４年 目標**	令和４年 実績	目標達成状況
電力使用量 削減（Kwh）	3,500	5,285	**5,232**	6,362	21.6%増 （未達成）
【CO2 排出量】 （Kg）			**－**	**85,786.01**	
水使用量削減 （㎥/月） ※は㎥/年	※179	※84	**14**	31	121%増 （未達成）
コピー用紙 使用量削減 （kg/月）	1.6	1.92	**1.9**	2.03	6.84%増 （未達成）
グリーン購入 品目割合増加 （%/月）			**実績確認**	31.54	
廃食用油 回収量 増加（ｔ/月）	110.7	95.39	**96.3**	**102.48**	**6.42%増 （達成）**
安全運転評価の 向上（点）			**80.3**	**82.48**	**2.18 点増 （達成）**
営業部残業 時間削減	34.4	29.13	**28.13**	**29.5**	1.37 時間増 （未達成）

※令和２年 10 月稼働

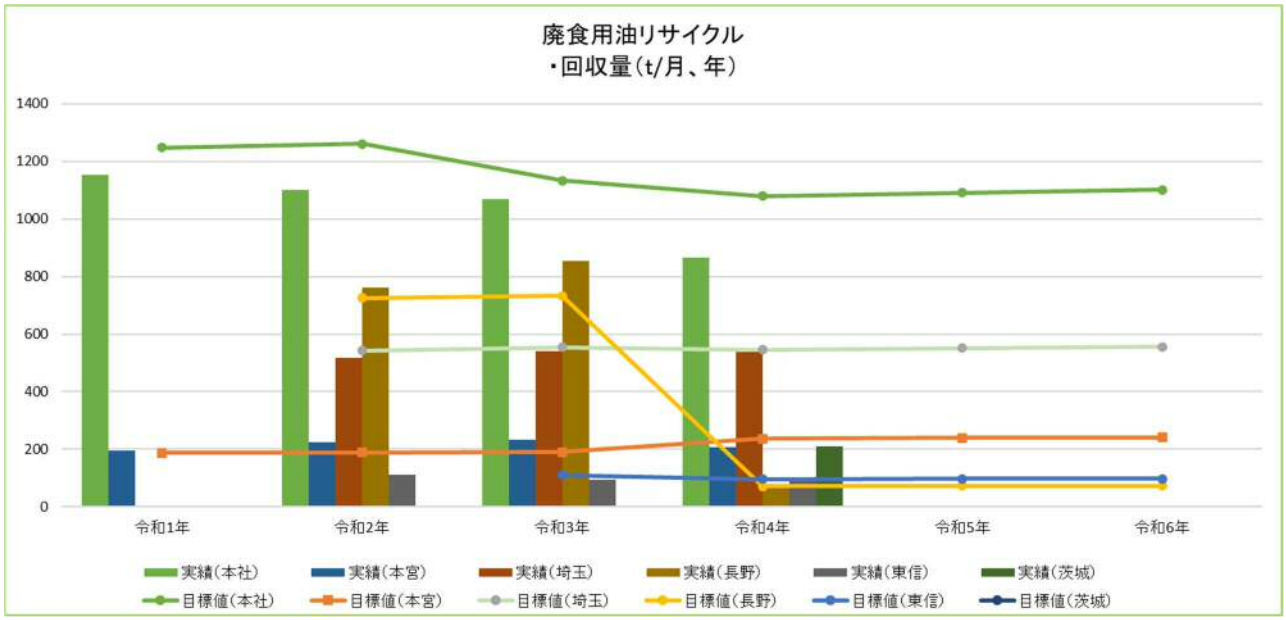
※購入電力の排出係数基準は、0.426 Kg-CO2/KwH（令和元年中部電力）を使用。

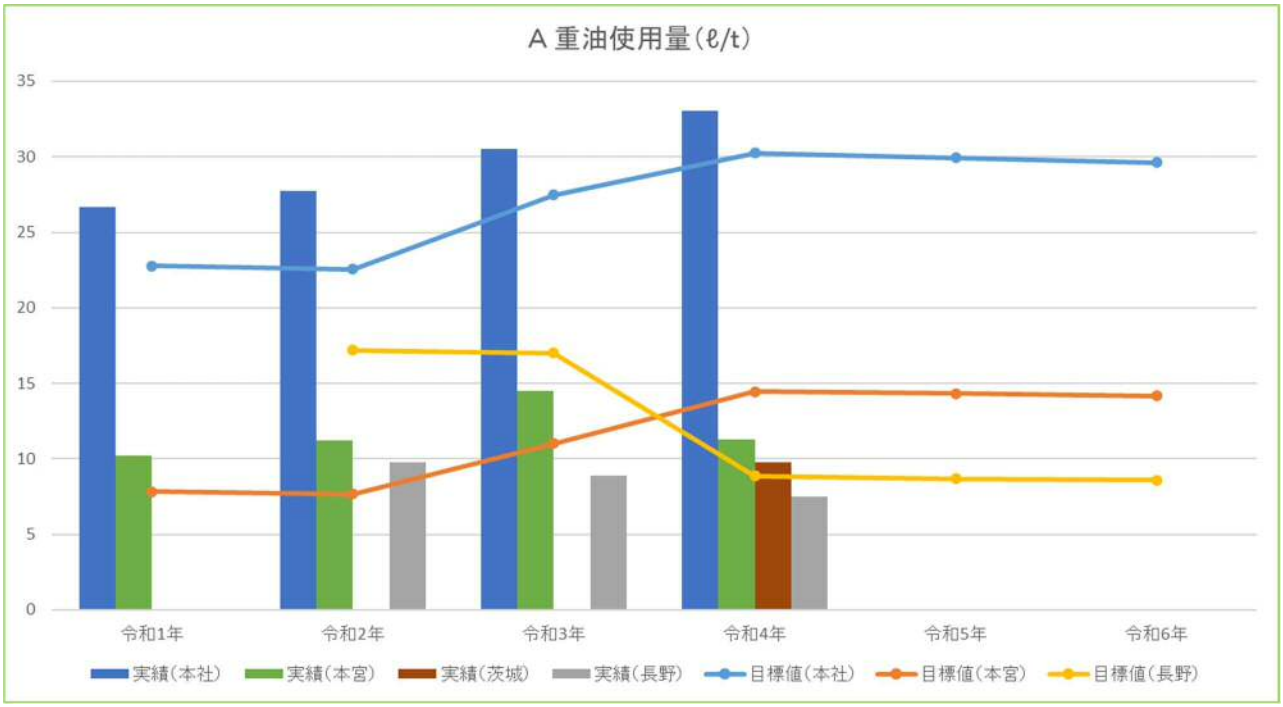
≪茨城工場≫

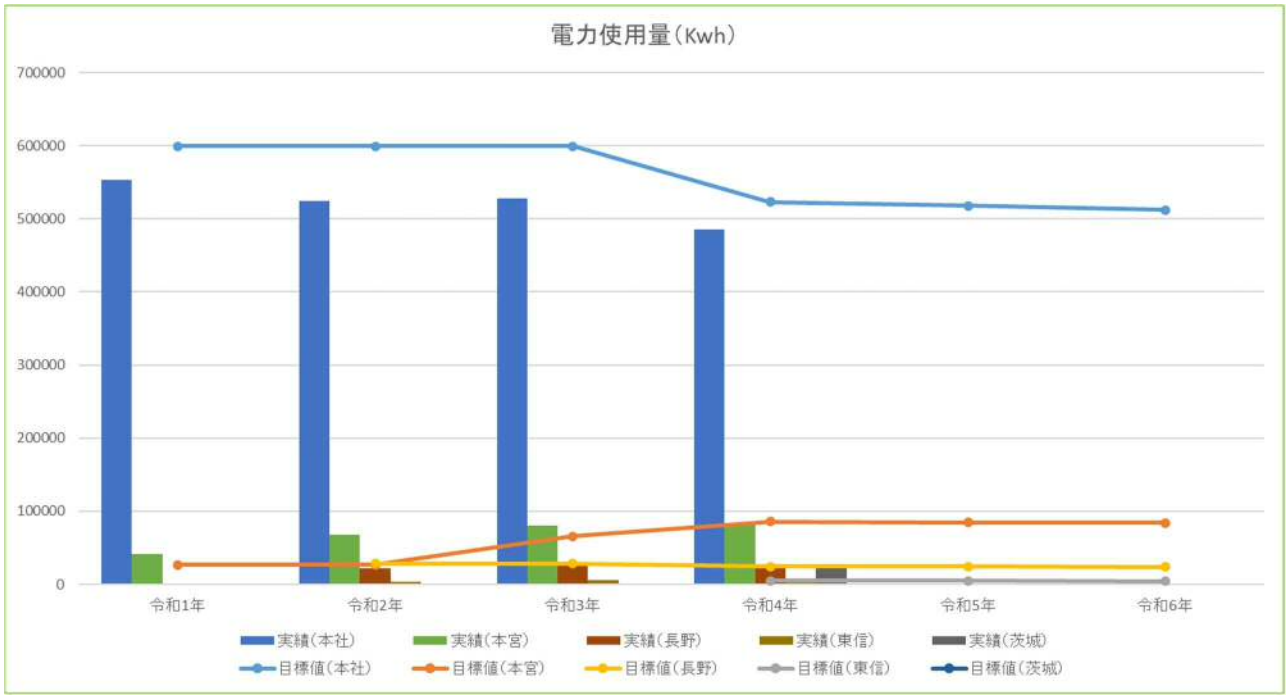
取組項目	令和４年 目標	令和４年 実績	目標達成状況
A重油使用量 削減（ℓ/t）	実績確認中	9.78	
電力使用量 削減（Kwh）	実績確認中	27,037	
【CO2 排出量】 （Kg）	実績確認中	200,828.97	
コピー用紙 使用量削減 （kg/月）	実績確認中	4.24	
水使用量削減 （ｔ/月）	実績確認中	69.5	
グリーン購入 品目割合増加 （%/月）	実績確認中	13.57	
廃食用油 リサイクル量 増加（ｔ/月）	実績確認中	210.8	
安全運転評価の向上 （点）	実績確認中	90.15	
営業部残業 時間削減	実績確認中	48.38	

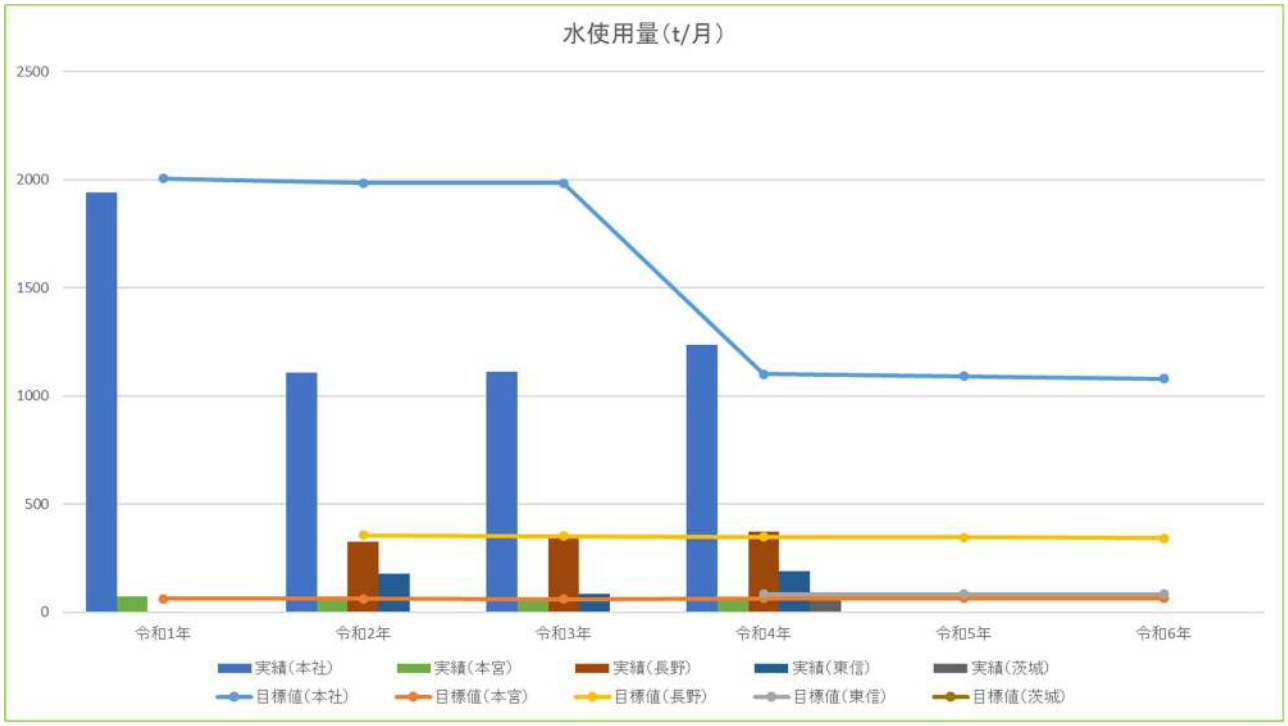
※令和４年７月稼働

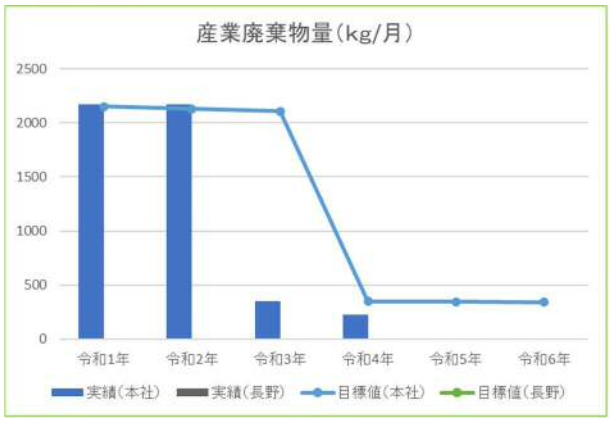
※購入電力の排出係数基準は、0.525 Kg-CO2/KwH（平成 24 年東京電力）を使用。

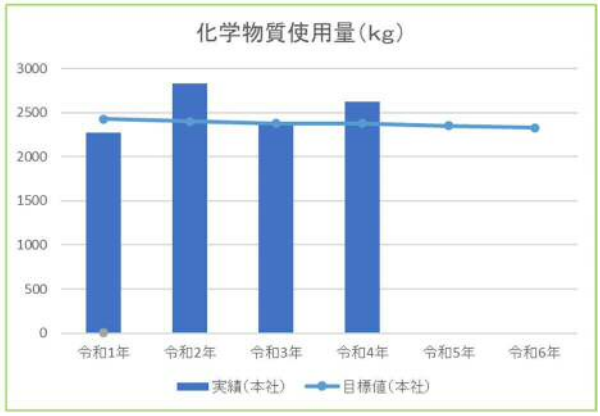

廃食用油リサイクル
・回収量(t/月、年)
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
令和1年
令和2年
令和3年
令和4年
令和5年
令和6年
実績(本社)
実績(本宮)
実績(埼玉)
実績(長野)
実績(東信)
実績(茨城)
目標値(本社)
目標値(本宮)
目標値(埼玉)
目標値(長野)
目標値(東信)
目標値(茨城)

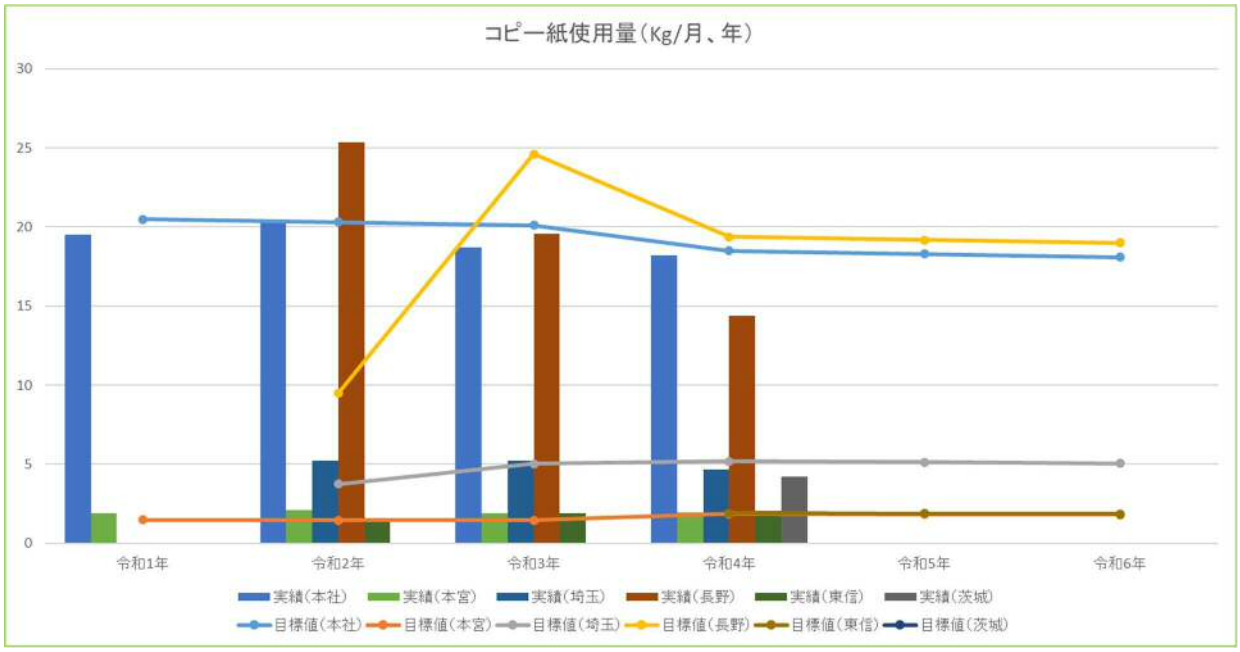

A重油使用量(ℓ/t)
35
30
25
20
15
10
5
0
令和1年
令和2年
令和3年
令和4年
令和5年
令和6年
実績(本社)
実績(本宮)
実績(茨城)
実績(長野)
目標値(本社)
目標値(本宮)
目標値(長野)

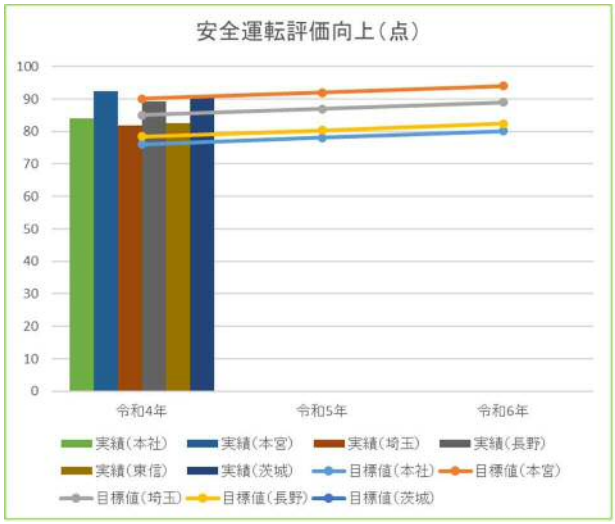

電力使用量(Kwh)
700000
600000
500000
400000
300000
200000
100000
0
令和1年
令和2年
令和3年
令和4年
令和5年
令和6年
実績(本社)
実績(本宮)
実績(長野)
実績(東信)
実績(茨城)
目標値(本社)
目標値(本宮)
目標値(長野)
目標値(東信)
目標値(茨城)

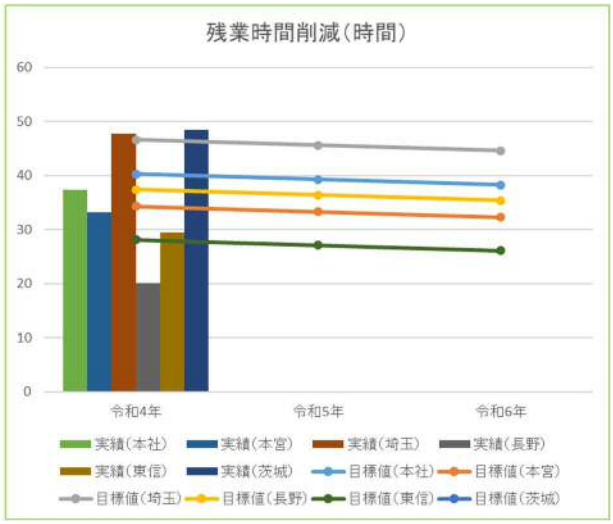

水使用量(t/月)
2500
2000
1500
1000
500
0
令和1年
令和2年
令和3年
令和4年
令和5年
令和6年
実績(本社)
実績(本宮)
実績(長野)
実績(東信)
実績(茨城)
目標値(本社)
目標値(本宮)
目標値(長野)
目標値(東信)
目標値(茨城)


産業廃棄物量(kg/月)
2500
2000
1500
1000
500
0
令和1年
令和2年
令和3年
令和4年
令和5年
令和6年
実績(本社)
実績(長野)
目標値(本社)
目標値(長野)


化学物質使用量(kg)
3000
2500
2000
1500
1000
500
0
令和1年
令和2年
令和3年
令和4年
令和5年
令和6年
実績(本社)
目標値(本社)


コピー紙使用量(Kg/月、年)
30
25
20
15
10
5
0
令和1年
令和2年
令和3年
令和4年
令和5年
令和6年
実績(本社)
実績(本宮)
実績(埼玉)
実績(長野)
実績(東信)
実績(茨城)
目標値(本社)
目標値(本宮)
目標値(埼玉)
目標値(長野)
目標値(東信)
目標値(茨城)


安全運転評価向上(点)
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
令和4年
令和5年
令和6年
実績(本社)
実績(本宮)
実績(埼玉)
実績(長野)
実績(東信)
実績(茨城)
目標値(本社)
目標値(本宮)
目標値(埼玉)
目標値(長野)
目標値(茨城)


残業時間削減(時間)
60
50
40
30
20
10
0
令和4年
令和5年
令和6年
実績(本社)
実績(本宮)
実績(埼玉)
実績(長野)
実績(東信)
実績(茨城)
目標値(本社)
目標値(本宮)
目標値(埼玉)
目標値(長野)
目標値(東信)
目標値(茨城)

Ⅴ　環境活動計画

目標を達成するための取組み

① 車両運転における二酸化炭素排出量低減対策

- アイドリングストップ・エコドライブの実施
  （急発進、急加速、急ブレーキ等の防止）
- 車両自主点検・整備の実施
- 回収ルートの見直し
  最短距離で回れる回収効率の良いルート作り
- 安全運転の徹底
  最高速度の厳守、車間距離の保持

② 生産工場における二酸化炭素排出量低減対策

- 洗車機使用時間の削減
- 使用後のポンプ電源は確実にＯＦＦ
- 場内照明は必要な場所で必要な時に点灯
- 廃油積み下ろしの合理化

（※以下の目標については、今年度は計画外とする。
ボイラー燃料の再生動植物油使用量の拡大
フォークリフトへの BDF 使用）

③ 廃棄物の発生抑制と分別

- 使用済みコピー用紙の裏面の利用
- 電子媒体の活用を広げる
- 数量の把握に取り組む

その他

① 事務所における二酸化炭素排出量低減対策

- 冷房温度は２８度、暖房温度は２５度を徹底した
- 夏季は窓のブラインドを閉め、室内における直射日光の照射を防いだ
- 昼休みの消灯を実施
- ゴミ分別の徹底

② 環境意識の向上

- 全体ミーティングでの環境教育
- 朝礼などでの環境活動の経過報告
- 環境方針の唱和

※福島本宮工場・長野工場・埼玉営業所・東信営業所も本社と同様とする。

株式会社吉川油脂
www.y-yushi.com

環境活動内容　一例

●令和 4 年 6 月 20 日　「佐野高等学校高一リーダーズ・シンポジウム参加」

●令和 4 年 7 月 20 日　「第 12 回さのクールアース・デー2022 協力・協賛」

●令和 4 年 8 月 5 日　「下野新聞・雷鳴抄に掲載されました」

●令和 4 年 10 月 5 日「ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・
ジャパン様への寄付活動」

●令和 4 年 10 月 24 日　「営業会議・防災訓練を行いました」

●令和 4 年 11 月 28 日　「ドナルド・マクドナルド・ハウス支援チャリティラン&ウォーク参加」

●令和 4 年 12 月 9 日　「ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン様より感謝状」

感謝状

廃油回収・
リサイクル業者の会　殿

青会はドナルド・マクドナルド・
ハウスの活動に対し深いご理解の
もと　ご支援を賜りハウスの運営
に多大の資献を戴きました
よってここにそのご厚意に対し深
く感謝の意を表します

令和四年十一月一日

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパン
代表理事　五十嵐　隆

●令和 4 年 12 月 10 日　「日本初、“ISCC　CORSIA 取得”」

●令和５年１月５日　「環境にやさしい、家庭用使用済み油リターナブルボトル回収開始」

●令和５年１月 13 日　「家庭用使用済み油の容器への移し替え方法動画」

●令和５年１月 26 日　「㈱タイヨー様　リサイクル石鹸の取り組み」

●令和５年２月８日　「レジリエンス認証を取得いたしました！」

●令和５年２月８日　「イトーヨーカドーネットスーパー西日暮里店様にて、
家庭用使用済み食用油リターナブルボトル回収開始」

●令和５年２月９日　「三田国際学園様にて、家庭用使用済み食用油
リターナブルボトル回収開始」

●令和５年２月 23 日　「弊社「家庭用使用済み油回収」進捗状況、
NHK クローズアップ現代にて、弊社提案の
「家庭用使用済み食用油リターナブルボトル回収」が放送」

●令和５年４月 10 日　「もにす認定トロフィーを授与いただきました」

●令和５年５月２日　「所沢市環境市民の会講演依頼をお受けしました」

Ⅵ　環境目標の実績・環境活動計画の取組結果の評価及び次年度の環境目標、活動計画

【総括】

(1) 当社の環境への負荷の低減・管理への評価

昨年 7 月に、茨城工場・茨城営業所が開業し、今年度はその他様々な取り組みを行ってきた一年間であった。新型コロナウイルス感染症が徐々に収束していく中で、コロナ明けに何を行うべきか考え、行動を行ってきた。

その代表として、ＳＡＦ事業とレジリエンス認証がある。レジリエンス認証は、地震、台風や水害などの自然災害、またサイバーテロやウイルス 感染症等、想定外の事態により事業の一部機能が停止しても、事業全体としての機能を速やかに回復できる取組みを構築することは非常に重要だと考え、この認証システムへ取り組んだ。まだ、初期段階ではあるものの、各営業所も本社同様に取組みをしていくことで、どのような災害が起きても対応できる会社を目指していきたい。ＳＡＦ事業においては、主業務である油脂回収の目標「リサイクル量の増加」につながる、新たな取組みとなる事業である。しかし、今年度はコロナ明けにより、お客様の廃油排出量が増大に向かうと見込んでいたが、それ以上に物価高騰の波が押し寄せ、お客様の出し渋り（油こしき導入等により）があり、目標の 9 割以下となってしまった。

環境負荷軽減においては、茨城営業所が稼働開始したことで他事業所の軽減が進むと見込んでいたが、油かす等の増加により、結果増加となってしまった。安全面・働き方改革の面では良い結果が出てはいるが、環境負荷軽減の側面からみれば、増加傾向という結果となってしまった。

ＳＡＦ事業や一般家庭廃油回収等を通じて、様々面で注目される中、当社自身の環境負荷軽減においても抜本的な内容も変えつつ軽減に努めていきたい。

(2) 結果の分析と今後の課題

新型コロナウイルス感染が五類に変更となった中で、世の中の返還期を迎えている。業界的な面ではＳＡＦ事業といった新たな取組みが注目される中で、様々な企業が求めているものを追求していき、変化への対応をおこなっていくことが重要と考えている。会社の理念である「お客様、社員、社会に必要とされ続ける会社を目指します。」を軸に、常にイノベーションしていくことを追求していきたい。

(3) 環境経営システム導入の評価

世の中の変化への対応を予測の上でエコアクション活動だけでなく、レジリエンス認証も取得することができた。様々な取り組みを通じて、会社全体の強靭化を目指し、いかなる場面においても生活や働く環境を作り続けられる会社でなければならないと考えている。そのためにも当社社員全員が環境システムを通じて更なる認識を強めて、あらゆる面においても対応力のある会社を作っていきたい。

今後も“環境経営システム”を通じ社会へ、環境へ、未来へ、発信し続けていきたい。

≪次年度（令和５年度）の活動計画≫

目標を達成するための取組み

① 車両運転における二酸化炭素排出量低減対策

- アイドリングストップ・エコドライブの実施
  （急発進、急加速、急ブレーキ等の防止）
- 車両自主点検・整備の実施
- 回収ルートの見直し
  最短距離で回れる回収効率の良いルート作り
- 安全運転の徹底
  最高速度の厳守、車間距離の保持

② 生産工場における二酸化炭素排出量低減対策

- 洗車機使用時間の削減
- 容器洗浄方法の改善（福島本宮工場）
- 使用後のポンプ電源は確実にＯＦＦ
- 場内照明は必要な場所で必要な時に点灯
- 配管保温用ヒーター使用方法の再検討（福島本宮工場）

③ 廃棄物の発生抑制と分別

- 使用済みコピー用紙の裏面の利用
- 電子媒体の活用を広げる
- 数量の把握に取り組む
- 包装ラップ等の分別と圧縮（本社）

その他

① 事務所における二酸化炭素排出量低減対策

- 冷房温度は２８度、暖房温度は２５度を徹底した
- 夏季は窓のブラインドを閉め、室内における直射日光の照射を防いだ
- 昼休みの消灯を実施
- ゴミ分別の徹底

② 環境意識の向上

- 営業会議での環境教育
- 朝礼などでの環境活動の経過報告
- 環境方針の唱和

Ⅶ 環境関連法規制の違反の有無

（１）関連法規制

環境関連法規制	内容	本社	福島	長野	埼玉	東信	茨城	確認日	遵守状況
産業廃棄物の処理及び清掃に関する法	許可条件の管理	○	○	○	○	○	○	7 月 10 日	適正
産業廃棄物処理施設の管理基準	処理施設の管理基準	○	○	○	－	－	○	7 月 10 日	適正
食品循環資源の再生利用法	食品リサイクル法	○	○	○	－	－	○	7 月 10 日	適正
消 防 法	届出内容の維持管理	○	○	○	－	－	○	7 月 10 日	適正
浄化槽法	浄化槽の維持管理	○	－	－	－	－	－	7 月 10 日	適正
水質汚濁防止法	環境条例	○	○	－	－	－	○	7 月 10 日	適正
大気汚染防止法	環境条例	○	－	－	－	－	－	7 月 10 日	適正
九都県市ディーゼル規制条例	車両の廃ガス規制	○	○	○	○	○	○	7 月 10 日	適正
労働安全衛生法	労働者の安全と健康を守る法律	○	○	○	○	○	○	7 月 10 日	適正
PRTR 法	非該当	－	－	－	－	－	－	7 月 10 日	非該当
省エネ法	非該当	－	－	－	－	－	－	7 月 10 日	非該当
ダイオキシン法	非該当	－	－	－	－	－	－	7 月 10 日	非該当
フロン排出抑制法	第一種特定製品	○	－	○	－	－	○	7 月 10 日	適正

（２）監視測定及び行政への報告

環境関連法規	測定内容	測定・報告回数	判定結果
大気汚染防止法(本社)	ばいじん・硫黄酸化物	年2回実施	過去 18 年間基準値内
水質汚濁防止法(本社)	pH・SS・BOD・りん含有量・n-Hex・窒素含有量	月1回実施	過去 18 年間基準値内
水質汚濁防止法（福島本宮工場）	pH・SS・BOD・n-Hex	年1回実施	過去 10 年間基準内

（３）違反、訴訟等の有無

令和 4 年度において、法規制の違反はありません。また、関係機関からの指摘もありませんでした。同様に、過去 12 年間において訴訟等も 1 件もありませんでした。

Ⅷ 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度は、新たに茨城工場・茨城営業所が増え、様々なデータを記録し始めた。「リサイクル量増加」を会社全体での目標の一つとしておこなってきたが、目標達成をすることができず、リサイクル量は目標の９割程度となり、非常に残念な結果となってしまった。

しかし、この１年で大きな変化もあった。ＳＡＦ事業への取り組みが具体化したこと、また、廃食油排出のお客様に、「リサイクルの見える化」を提供するため、新しく「株式会社GREEN　SUSTAINABLE　AGRICULTURE」を昨年８月に設立し、ビニールハウスで水耕栽培によるミニトマト栽培を始めた。これは、リサイクルした油をボイラー燃料にし、ビニールハウス内を温めるために利用している。お客様の中には、この栽培でできたミニトマトを購入してくださり、メニューに取り入れてくださる方もいた。また、スーパーチェーンでの取り組みでは、惣菜を作る際に出た廃油を弊社で回収し、ボイラー燃料にリサイクルし、その燃料を使用して栽培したミニトマトを店頭で販売する。スーパーを訪れたお客様はミニトマトを購入し、循環型リサイクルを具体的に理解することができる。リサイクルの取り組みとして「リサイクル石鹸」を購入してくださる排出事業者様も多いが、「食」に戻るミニトマトの取り組みも、もっと増やしていきたいと思っている。

社員一人一人が、環境負荷軽減に寄与しているという自信とともに、そのリサイクル活動をもっと拡げていけるような意識を持って、日々の業務を行なってもらいたい。